

新刊紹介その他

著者	植物地理・分類学会
雑誌名	植物地理・分類研究 = The journal of phytogeography and toxonomy
巻 号	53 1
ページ	99-120
発行年	2005-07-25
URL	http://hdl.handle.net/2297/48832

新刊紹介

○ 村田 源 (著), レッドデータブック近畿研究会 (編): **近畿地方植物誌** A4判, 257頁, 2004年12月20日, 特定非営利活動法人 大阪自然史センター, 3,400円.

著者がかねてから少しずつ書き留めておられた上記植物誌は昨年12月で45回目を数えるに至った。この本は京大の植物標本(KYO)を一枚一枚検討して作られたもので, すべての標本は京大の標本庫に保存されていることになる。近年地方植物誌の出版が相次いでいるが, しっかり同定された標本の裏付けをとまっているものばかりではない。村田氏の50年をかけた仕事という点で驚異的な著作である。はじめの総論ともいうべき「近畿地方の植物分布の概説」は著者の蘊蓄を傾けて書かれており, 各種の記載は学名・和名・開花期・近畿地方内分布点などになっている。この間に発見された過ちは, その後に訂正されて10頁にわたる正誤表が付加されている。後には和名の索引が付けられていると共に『2004年版近畿地方の植物分布図文献目録』とその索引が付記されている。

購入希望者は, 大阪自然史センター (〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園1-23 大阪市立自然史博物館内 Tel. 06-6697-6262) へ問い合わせること。
(清水建美)

○ 野村外喜子 (文), 西 要子 (写真): **自生地で輝いている郷土の花はな** 石川県, 富山県, 福井県 A5判, 208頁, 2005年4月29日, 前田印刷株式会社出版部, 1,500円.

畏友の野村外喜子さんが2002年4月から2年間, 北陸中日新聞に連載された郷土の植物101種の花について永年の植物観察の記録を1冊の本にまとめた。それはカタクリやフキ, オドリコソウなどの人里の植物に始まり, サンカヨウ, ゼンテイカ, ハクサンイチゲなど高山植物も含めて楽しい読み物となっている。この種の本がどんどん出版されることで, 私たちの植物自然史の見方も一層興味深くなることであろう。私は故里見先生から気多大杜のタブザクラの話を知ったことがある。タブの木にサクラが着生して見事に育つ姿を見て興味深く覚えたものであった。
(清水建美)

○ 内村悦三: **タケ・ササ図鑑〜種類・特徴・用途〜** B6判, 220頁, 2005年4月20日, 創森社, 2,520円.

タケやササは身近にあるにも関わらず, 改めて名前を知ろうと思っても特徴が少ない上にごろな図鑑がなく, 付き合いにくい植物という印象があった。本書は豊富な写真と解説によってタケやササの実用的手引書となるよう意図されたもので, 普段目にする機会のある130種類余りがすべて網羅されている。配列は分類体系順で, 単軸型タケ類, 単軸型ササ類, 連軸型タケ類の大きく3つに分けられている。写真は生態的な竹林の景観から, 稈や葉など種類を特定する識別点が解説と共に示されていて判りやすい。本文は, 分布, 特性, 用途の他にメモの項目があり, 植物学的な特徴だけでなく利用や種類にまつわる著者の幅広い知識が伝わってくる。178頁以降はタケ・ササ類の基礎知識の章となっていて, 植物分類学的な概要, 生活史, 簡易検索表, 部位図と名称, 分布, タケの用途, タケ・ササのある植物園がまとめられており, タケやササはどのような植物なのかを知る格好のテキストでもある。また, タケ・ササについての用語解説とその英和用語集が巻末に付いているのも便利である。
(中田政司)

○ 種生物学会編 (堀 良通・大原 雅 責任編集): **草木を見つめる科学** 植物の生活史研究 A5判, 271頁, 2005年3月27日, 文一総合出版, 3200円.

本書は種生物学会と文誌「種生物研究」が単行本化してから5冊目にあたり, 個体群統計遺伝学や推移行列モデルを用いた植物の生活史研究に関する8章から成り, 付録として, 植物個体群統計学のための野外調査方法, 生態遺伝学のための調査法, 推移行列モデル解析のための基礎数学が紹介されている。今日, 植物の生活史研究は, 成長と繁殖の記載的研究から個体群生態学や個体群統計遺伝学へ, さらに保全生物学として様々な研究アプローチの総合的集約の段階に入っている。これらの発展は, 地道なフィールドワークによってもたらされてきた。しかしながら, 本書の責任編集者は, 近年の植物生活史研究におけるフィールドワークの存在の稀薄化を危惧している。生活史研究において各種遺伝解析や数理解析のレベルが進歩し盛んになる一方で, その解析対象データを採取するフィールドワークの実態が見えてこないという危惧である。フィールドでの長期観察によって得られたデータに基づいてこそ初めて最新の解析技術が生きてくるというコンセプトで本書は企画・編集されている。初心者には難しい用語が多々あるが, 野外における長期間にわたる植物の生き方に興味のある方々に読んでいただきたい。
(和田直也)

- 佐藤利幸・内田暁友・梅沢 俊・甲山隆司・児玉裕二・原登志彦：北海道寒冷地（北・東部）のシダ植物：分布と多様性 A5判, 105頁, 2004年5月31日, 非売品。

本書は、北海道における100種のシダ植物の詳細な分布図を掲載している。

最初の1頁に、はじめに、方法、結果と考察があり、2頁に北海道における調査地点とシダ植物密度が図示されている。3頁目からは1頁1種ずつ、和名、学名、科名、キーワードによるその植物の特徴、生育地、分布が記入され、北海道での分布図、日本での分布図、さらにカラーの生態写真が出ている。巻末の頁に参考文献がある。本の表題にあるように、北海道の北部（幌加内町母子里や歌登町）と東部（知床半島：斜里町ウトロ周辺や羅臼町）は、精査され、詳しい区画で示されている。エゾノヒモカズラ、ヒメドクサ、ミヤマイワデンダ、ヤチスギナ等、北海道にしか生育しない植物の北海道での分布資料は貴重である。

購入希望者は、佐藤利幸氏（〒390-8621 松本市旭3-1-1 信州大学理学部生物学科 TEL & FAX 0263-37-2495）に申し込まれるとよい。実費500円と送料85円で入手できる。（鳴橋直弘）

- 牛島清治・牛島富子：兵庫県 猪名川町の植物誌 A4判, 249頁, 2005年1月, 自費出版, 5,000円。

本書は、兵庫県東部で大阪府と接している川辺郡猪名川町（いながわちょう）の植物誌である。

この本は、巻頭部の7~41頁に、植物のカラー写真がある。次に、猪名川町の自然環境、猪名川町の植物相、猪名川町に生育している絶滅危惧植物、猪名川町の植物文化の伝承（生活と植物のかかわり）、猪名川町の植物文化財（天然記念物）、猪名川町の植物目録、文献、の項目立からなる。本体をなす植物目録は、シダ植物から裸子・被子植物で、植物は学名、和名、採集地名、採集者名、標本番号、収蔵標本庫からなる。これらのリストの作成には、7年間の現地調査をなし、確認種数は1,239種（152科）で、標本は兵庫県立人と自然の博物館と頤栄短期大学へ納めてあるという。

この本の特徴である94-106頁の植物文化の伝承は面白い。今日、西洋文化が導入され、また、戦後の急激な生活スタイルの変化で、我々の生活と植物とのかかわりは非常に変化している。衣食住での植物との関係は、ここで取り上げられている色々な事柄の多くが、過去のものとして忘れられようとしている時、非常に意義深いものである。

購入希望者は、郵便為替（口座番号 00960-0-99294, 加入者名 牛島清治）で通信欄には、猪名川町の植物誌、植物地理・分類学会員と記入し、4,340円を送金すると、入手できる。（鳴橋直弘）

- 協和町教育委員会：協和町動植物調査報告書 A4判, 343頁, 2005年2月10日, 非売品。

本書は、秋田県中央部に位置する仙北郡協和町（きょうわまち）の動植物の学術調査報告書である。総監修は、協和町出身の横浜国立大学名誉教授の奥田重俊先生である。

この本は、平成13年から15年までの3年間に町内全域の動植物について、現地調査をおこなった結果の報告書であり、主な項目は、協和町動植物調査の概要と自然環境、協和町の植物、協和町の哺乳類、協和町の鳥類、協和町の両生類・爬虫類、協和町の魚類、協和町の陸生昆虫類、協和町の底生動物、協和町陸産貝類、である。その内、植物に関しては、巻頭部に2頁のカラー写真があり、1-8頁に動植物調査の概要と自然環境の説明があり、9-35頁は植物に関する研究史、調査方法、植物相の概要や植物地理分布の特徴、保護、初記録、帰化植物等について、31-84頁は、植物目録（学名、和名、採集地、標高、採集日、採集者名が記入）で、85-103頁は、おもな植物の協和町内での分布図である。最後の105-106頁には引用文献が出ている。採集・記録された植物は、シダ植物以上で1,040種である。

入手希望者は、協和町教育委員会（〒019-2411 秋田県仙北郡協和町境字野田4 協和町役場 教育委員会 生涯学習課）へ問い合わせること。（鳴橋直弘）

- 佐藤俊樹：桜が創った「日本」—ソメイヨシノ起源への旅— 新書判, 224頁, 2005年2月18日, 岩波書店, 740円。

本書は、桜をめぐる語りの本である。

この本は、ソメイヨシノ革命（「桜の春」今昔、想像の桜／現実のサクラ）、起源への旅（九段と染井、ソメイヨシノの森へ、桜の帝国、逆転する時間）、創られる桜・創られる「日本」（拡散する記号、自然と人工の環）の3部からなる。巻末には「桜のがいどぶつく・がいど」があり、文献の紹介がある。

植物の桜にサクラと名前がついた理由については諸説ある。著者は、「サ」は穀物（稲）の精霊、「クラ」は神が座す場所から出たという。この説は誰の考えかは知らないが、わりと新しい説である。著者は、固定した

品種名としてソメイヨシノを位置付け、雑種としての分類学上のソメイヨシノを考えていない。“やまざくら”は、ヤマザクラという種を指すのか、オオヤマザクラやカスミザクラ等のヤマザクラ群を指すのか、栽培ではない自生種を指すのか。確かに文学に出てくる“やまざくら”は何を指しているのか、を考察する必要があると思う。

本の中で、古典文学から現代までサクラに関した非常に多数の本が引用されているが、新しいサクラに対する見方を期待した筆者には物足りなさが残った本である。このことは筆者の文学的素養の無さからくるのかも知れないが。

(鳴橋直弘)

○ 内村悦三：タケと竹を活かす タケの生態・管理と竹の利用 林業改良普及双書 No.148. B6 判変形, 196 頁, 2005 年 3 月 5 日, 全国林業改良普及協会, 1,100 円。

本書は、タケ学の総合入門書であり、衣食住との関わりあい論じた文化誌である。

この本は、タケと竹の世界、タケが分布する地域と特性、タケの生態を知る、竹利用から考えたタケ管理法、時代と共に歩む竹、生活に活かされる竹の姿、環境保全と竹、タケと竹の華を咲かせる、の 8 章からなる。

農学と林学畑に席を置き、タケの生理学と生態学を永年勉強されてきた著者だけに、タケ学の応用科学としての内容はすばらしい。本の中で、著者は、生きている植物としての「タケ」と、死んだタケを「竹」として区別している。今後のタケと竹の利用は大いに参考になるし、「タケ」のことしか知らない読者には、「竹」のことが勉強できる本であるので推薦したい。

(鳴橋直弘)

○ 滋賀県立琵琶湖博物館 (編)：琵琶湖博物館資料目録第 11 号 植物標本 4 村瀬忠義 植物標本目録 合弁花類 A4 判, 332 頁, 2005 年 3 月 25 日, 琵琶湖博物館資料目録第 12 号 植物標本 5 村瀬忠義 植物標本目録 離弁花類 A4 判, 461 頁, 2005 年 3 月 25 日, 滋賀県立琵琶湖博物館, 非売品。

本書は滋賀県立琵琶湖博物館に所蔵されている村瀬忠義氏採集標本のうち、双子葉の合弁花類と離弁花類の目録である。

この目録は、エングラースystemに従い科が配列され、属以下はアルファベット順で、標本毎に、博物館の登録番号、採集地、メッシュ番号と標高、村瀬氏の採集番号、および採集日が記されている。採集地は、漢字とローマ字の両表記なので、読者には有り難い。希少種など絶滅の恐れのあるものについては村瀬氏の判断で、採集地、標高、メッシュ番号は*印で置き換え、明示されていない。巻末には、学名索引と和名索引がついている。

琵琶湖博物館資料目録第 10 号 植物標本 3 単子葉・裸子植物・シダ植物の目録が昨年 3 月に出版されているので、これで、村瀬忠義氏採集の滋賀県の植物がリストアップされたことになる。

11 号の末部に、10-12 号に収録された標本の科数、属数、種数、標本点数一覧、保護上重要な種類一覧、10 号刊行後新たに確認された単子葉・裸子植物・シダ植物のリストがある。また、滋賀県の植物分布の概要は、県内の植物地理区の解説で、A. 日本海植物区系 (a. 湖北植物区 b. 伊吹山植物区 c. 鈴鹿北部植物区 d. 鈴鹿中・南部植物区 e. 三国山植物区 f. 箱館山・生杉植物区 g. 比良山植物区) と B. 瀬戸内植物区系 (h. 比叡山植物区 i. 琵琶湖沿岸植物区 j. 湖東・湖南植物区) の 2 区系 10 植物区に分け、それぞれ地図上で地域を図示しながら簡単に説明している。滋賀県の植物区系地理を知るには便利なものである。

購入希望者は、滋賀県立琵琶湖博物館 資料担当資料目録係 (〒525-0001 草津市下物町 1091 TEL 077-568-4811) へ問い合わせること。送料の実費で入手できる。

(鳴橋直弘)

○ 久志博信・内藤登喜夫：山野草大百科 B5 判変形, 310 頁, 2005 年 3 月 25 日, 講談社, 2,857 円。

カラー写真で 1,200 種類以上の山野草を、管理や繁殖方法まで紹介した本である。

本書は、早春の山野草を訪れる、春の山野草を訪れる、夏の山野草を訪れる、秋の山野草を訪れる、海外の山野草を訪れる、山野草栽培の基礎知識、が主な項目で、他に山草の達人に学ぶというコラムや、外国人の寄稿や翻訳された記事もある。本体をなすそれぞれの小項目には、シュンラン、フクジュソウ、ネジバナのように単一の植物の場合と、カタクリの仲間、ナズナの仲間、アヤマの仲間のように同じ属または近縁属の植物を集めたものがある。例えば、ハンショウヅルの仲間では、それが属する科と属名があり、花期や栽培の難易度が載っている。ミヤマハンショウヅルやトリガタハンショウヅルをはじめクレマチス・マクロペタラ等の外国種が簡単な文章とカラー写真で紹介され、植え付け、植え替え、日常の管理、殖やし方が簡単に解説されている。

山野草には、高山植物をはじめ厳しい環境に生育する植物が多く、それらの栽培・管理には相当高度な技術が要求される。この本は、栽培用の鉢の使い分け、用土の選定、水やり、肥料等、栽培上で有益な情報がいっぱい見られる。山野草として日本に入っている外国の植物の写真は綺麗なので、見ていて飽きない。

(鳴橋直弘)

○ 菊沢喜八郎：葉の寿命の生態学—個葉から生態系へ— A5判, 212頁, 2005年3月25日, 共立出版, 3,500円。

本書は、日本生態学会50周年記念として、スタートした生態学シリーズの1つで、植物の葉の寿命についてとりまとめた本である。

この本は、はじめに、葉寿命の求め方、葉寿命のさまざま、葉の特性と葉寿命、環境条件と葉寿命、葉の被食、常緑性と落葉性、葉寿命の地理的变化、葉寿命の理論、生態系・バイオームと葉寿命の10章と、結論、用語解説、文献からなっている。

従来葉については、空間的配列を問題にしてきた。つまり、シュートの中で葉をどのように配列するのかである。この本では、時間的配列について述べている。つまり、葉をどのように展開するのか、あるいは展開した葉をどのように落とすのか。そして1枚の葉をどの程度の期間保持するのか、などのスケジュールである。この個々の葉の保持期間が葉の寿命であると著者はいう。葉の寿命は光合成速度とは負の相関を、葉の単位面積当たりの重量や光合成速度がゼロになる時間とは正の相関をもつと考えられるという。この本は、葉の生理・生態を考える上でなくてはならない参考書である。

(鳴橋直弘)

○ 白山高山植物研究会(編)：白山麓における高山植物の馴化試験 [平成10年度～16年度] A4判, 161頁, 2005年3月31日, 石川県環境安全部自然保護課, 白山市発行, 非売品。

本書は、1998年から白山市白峰で行っている白山高山植物の馴化試験の結果報告書である。

目次には、試験成果に寄せて、試験中に開花した白山の代表的な高山植物、試験地風景、第1章 事業の概要、(1) はじめに(白山国立公園、高山植物とは、高山植物をまもる)、(2) 白山高山植物馴化試験(目標、施設概要、方法)、第2章 結果(1) 概要(絶滅危惧植物の考え方、生育する絶滅危惧植物)、(2) 各論 主要な種(174)について、リスト、関連資料(ロックガーデン植栽詳細図、西山試験地植栽詳細図)、関連報道資料、事業経過、馴化植物種名一覧、開花・結実調査2004、索引(学名、和名)、あとがき、がある。

種子を採取し、バーミキュライトの入ったプラスチック製育苗箱に播き、翌年の実生苗をビニールポットへ植え替え、植物の生育とともに大きいビニールポットに植え替え、大きく育った植物を露地に下ろすという作業は、数が多ければ大変な労働である。採取した種子は418種で、361種が発芽、162種が開花したという。白山にはブナ帯以高には545種あるというから、76%の植物について試験したことになる。本の32頁から118頁には、頁の半分を使って、1種ずつ、植物(開花植物が多い)と発芽時の苗床と幼植物のカラー写真、および植物に関するノートと発芽、育成、病虫害、備考が書かれている。写真も綺麗であるし、不断目にしない高山植物の芽生えが見られて楽しい。植物の総数は174種である。栽培技術が向上したのか、このような多くの高山植物が、標高857mの西山の山腹で開花・結実するとは、驚きである。夏以外現地で観察できないことが、その試験地では容易に観察できる。増殖した植物体は色々な実験に使用できる。だから、そこは高山植物の解明の場所の一つになると思われ、今後の成果を大いに期待したい。

購入希望者は、白山市教育委員会白峰分室(〒920-2501 石川県白山市白峰ハ130 白山市白峰支所)へ問い合わせること。

(鳴橋直弘)

○ 浜島繁隆・須賀瑛文：ため池と水田の生き物図鑑 植物編 B5判, 135頁, 2005年4月10日, トンボ出版, 2,940円。

この本は、ため池と水田に生える植物をカラー写真と文章で紹介したものである。

本書は、1. ため池と水田の植物(ため池と水田の歴史と現状、ため池と植物の生活、水田と植物の生活)、2. ため池の植物(岸辺の植物、水辺の植物、水中の植物)、3. 水田の植物(水田や溝の植物、水田や畦の植物)の3部からなる。巻頭部に本書の使い方と用語解説がある。ヒシ・コオニビシ・ヒメビシ、オオカナダモ・コカナダモ・クロモ、アオウキクサ・ナンゴクアオウキクサ・コウキクサ・イボウキクサなど、類似している植物の見分け方も出ている。植物のカラー写真は鮮明で綺麗であり、花、果実、発芽した幼植物、殖芽などについて線画での説明もありがたい。

多くの植物は、道路建設、宅地化、植林、開墾等、人の経済活動によって多大な影響を受けて来た。ため池や水田の植物もまた、除草剤、殺虫剤、肥料などの水質の悪化、池や水田での改修工事、水田での機械化等によって激しく変化させられてきた。極端な場合は、ため池を埋めて他に利用したり、水田を放棄したため草原化している。そのため、ある植物は絶滅の危機にさらされているという。この本は、身近にあるため池や水田の植物に親しむ学生達に良い参考書となると思われる。(鳴橋直弘)

○ V. H. ヘイウッド (著) 大澤雅彦 (監訳) : ヘイウッド花の大百科事典 A4判, 368頁, 2005年4月30日, 朝倉書店, 36,000円。

本書は, V.H. Heywood *Flowering Plants of the World*, Oxford Univ. Press 1993 の翻訳本である。

この本は、はじめに、用語集、双子葉植物亜綱、単子葉植物亜綱、文献、付録他、索引 (和文、欧文) からなり、23頁から311頁までは、本体をなすそれぞれの科の説明である。この本で取り上げられた科は349科でその内200科以上が図示されている。例えばバラ科は132頁から136頁で、まず世界地図での分布図があり、次に記載で、分布、科の特徴、分類、経済的利用の順で書かれている。5頁のうち2頁を使ってバラ科植物数種の彩色画がある。絵は科の下位の大きな分類群からそれぞれ代表的な植物で、さらに花と果実も別に付け加えられている。この本のほとんどの図は、いわゆるボタニカルアート的で、植物の雰囲気は表現されているが、植物学的線画ではないので、組織や器官の区別が明瞭でない場合も見られる。分類という項目の最後に書かれているその科が何という科と類縁が近いかということは、教育的であり、まれに近縁な科との区別点を書かれ、また、送粉様式や散布体の分散様式も見られ、有益である。この地球上に存在する約25万種の顕花植物を科別に簡潔に纏めあげた本であり、日本以外の植物を目にする機会の多い今日、参考になる本である。

(鳴橋直弘)

○ 加藤偉重・加藤英寿・木原 章・若林三千男 : 牧野標本館所蔵シーボルトコレクション データベース CD-ROM 版 135×142 mm 判, 2005年5月20日, 東京都立大学出版会, 1,500円。

本 CD-ROM は、都立大学 (現首都大学東京) の牧野標本館にあるシーボルトの収集した標本、マキシモヴィッチ、ピュルゲル、ピセツ、アルブレヒトの採集品、さらにシーボルトと交流のあった水谷助六、大河内存真、伊藤主介、桂川甫賢、平井海蔵らの日本人の作成した標本を画像データベース化したものである。この CD-ROM は、ウインドウズ、マッキントッシュ、UNIX のいずれかでも利用できるという。

CD-ROM を開いて、シーボルトコレクションのホームページを出す。そこの解説、索引、データベースをそれぞれ選んでクリックして進んで行ける。解説は写真もあり、分かりやすい。索引は標本を見たいときで、標本箱別、科名、和名、学名、標本番号、項目、マキシモヴィッチ標本からそれぞれ検索が可能である。これらの標本の検索の仕方は1つではなく、また簡単で非常にわかり易い。台紙に加多九利の名前があったりして面白い。標本は、採集のデータなどほとんどないものがあり、切れ端もあり全部が立派な物とは言えないが、植物的価値ではなく、江戸時代という背景からは多くの興味あることを伝えてくれる。

(鳴橋直弘)

○ 吉田外司夫 : ヒマラヤ植物大図鑑 B5判, 799頁, 2005年5月20日, 山と溪谷社, 13,000円。

非常に多数の種数を掲載しているヒマラヤ植物の綺麗な写真集である。

本書は、はじめの4頁から48頁に渡り、ヒマラヤの植物研究史 (大場秀章)、ヒマラヤの植物地理、ヒマラヤ山脈全体図、ヒマラヤ山脈の地域図、ヒマラヤ山脈の地域区分、ヒマラヤの植物の水平分布と垂直分布、ヒマラヤ高山植物の適応戦略、中国の横断山脈に見るヒマラヤの植物、および参考文献がある。この部分は内容の濃いものであり、地図がふんだんにあり読み易く、非常に教えられることが多い。本体の植物の解説と写真は、被子植物双子葉合弁花類、被子植物双子葉離弁花類、被子植物単子葉類・裸子植物との3部からなる。植物のそれぞれのカラー写真はみごとである。

バラ科キイチゴ属はネパールからブータンのヒマラヤには48種分布すると考えられるが、4種しか登場していない。しかも、その内の1種は同定間違いである。この本では、木本植物が少なく、草本植物でも花の目立つものが多いのはこの種の写真集としては当然のことかもしれない。それはさておき、これだけ多数のヒマラヤの植物が綺麗な写真で見られるのはうれしいことである。

(鳴橋直弘)

○ 中尾佐助 : 中尾佐助著作集 第IV巻 景観と花文化 A5判, 40+744+29頁, 2005年5月25日, 北海道大学図書刊行会, 12,000円。

本書は、中尾佐助先生の著作のうち、自然、景観、花、園芸文化に関する著作を選び、編纂されたものであるという。

この本は、照葉樹林帯の景観、プータンの花、野生の花、花と木の文化史、庭園と花文化の 5 項目と、湯浅浩史氏の解説（中尾佐助の景観と花文化、その原点と展開）からなる。口絵には、中尾佐助が好んだ景観と中尾佐助が愛でた花々として、52 枚のカラー写真がある。

中尾先生の文章は、読み易く、本書ではふんだんに植物の写真が登場するので、あきない。また、湯浅氏の解説文は長くはないが、要領良く中尾先生の人物像が浮かび上がる。

照葉樹林文化論の提唱者として有名な中尾先生は、毎日新聞社の『秘境プータン』、毎日新聞社の『ヒマラヤの花』、朝日新聞社の『プータンの花』、岩波書店の『栽培植物と農耕の起源』、岩波書店の『花と木の文化史』、朝日新聞社の『分類の発想』等で、植物分類の世界でも知られている。先生の書かれた物は多方面で、その収集が大変であった。今回これらを纏めて、6 巻の著作集となって我々の手許に届くことは、ありがたいことである。日本の高山植物についても先生独特の考え方を提唱しており、日本人の美意識、花文化、考花学等面白い話題が多い。

(鳴橋直弘)

○ 小野木三郎：花かおる乗鞍岳 新書判，112 頁，2005 年 5 月 27 日，ほおずき書籍，1,000 円。

本書は、自分で乗鞍岳の高山植物の名前が、調べられるように工夫された、ポケットサイズの図鑑である。

前半の高山植物入門編として、乗鞍岳の植生、あなたは今、ツンドラにいます、高山植物の分布域と由来、高山植物の生育環境、クロユリを知っていますか？ コバイケイソウの花の不思議、どこが、どのようにしてこんな毛に？ 見ればわかるのに観てないの！ ハイマツにも花は咲きます、そもそも花って、どんなもの？。虫は無視できません、描いて見よう—ジッとよく見る、絵手紙のすすめ、侵入する帰化植物、自然保護を考える、名前をつけて遊びましょう、秋も飽きないまた紅葉、の各項目が、1~2 頁でやさしく解説されている。後半の高山植物図鑑として、白色系の花をはじめ、花の色別に 7 つに分けて、それぞれ高山植物が 1 頁に 2 種づつ、合計 120 種掲載されている。巻末には、高山植物検索表（花の色やつくり、葉や花の図、全体のスケッチがあって、名前が調べられる）がある。

カラー写真は鮮明で、私の命名という白紙の欄があって、自分で名前を付けて遊べるようになっている。リュックに入れて、現場で名前を調べるのに適し、学校の生徒やアマチュアの人には良い本かもしれない。

(鳴橋直弘)

植物関連雑誌のタイトル紹介

(括弧内は頁数を示す。雑誌によっては編集部で植物自然史関係のもののみ選択した。雑誌の閲覧を許可された富山市科学文化センター、富山県中央植物園に感謝いたします。掲載を希望される方は、雑誌を編集部までお送り下さい。)

○ 利尻研究 第24号 2005年3月

(〒097-0311 北海道利尻郡利尻町仙法志字本町136 利尻町立博物館)

佐藤雅彦・佐藤里恵・西島 徹・小杉和樹：利尻島における帰化植物の記録 (1) (5)

○ 小樽市博物館紀要 第18号 2005年3月

(〒047-0031 北海道小樽市色内2-1-20 小樽市博物館)

小樽野草愛好会：小樽市塩谷丸山の植物相 (17-34) / 五十嵐 博：小樽港の帰化植物 (35-42)

○ 北国研究集録 第9号 2005年3月

(〒096-0063 北海道名寄市緑丘222番地 名寄市北国博物館)

三浦忠一：名寄公園とその周辺の植物 (1-10)

○ 北方山草 第22号 2005年3月

(〒061-2286 札幌市南区藤野6条4丁目29-5 松井 洋方 北方山草会)

佐々木純一：ちょっと変わったエンレイソウの仲間たち (3-6) / 小宮定志：食虫植物で見られる隔離分布 (7-13) / 辻井達一：カラマツとイソツツジ (14-17) / 高橋英樹：更別と別海のヤチカンバ (18-25) / 五十嵐 博：ケショウヤナギの産地整理と分布河川名 (26-32) / 山崎真実：札幌市南区空沼岳のイトキンボウゲ (33-36) / 松井 洋：クロガクモメンヅルは北海道に自生しているのか? (37-43) / 助野実樹郎：大雪山・高根ヶ原の風衝砂礫地におけるハイマツの年枝伸長量と球果生産 (44-51) / 志田祐一郎：イソツツジ属植物の北海道における分布とカラフトイソツツジの葉の形質 (52-56) / 林 廣志・松井 洋：サロマ湖畔幌岩山の植物 (57-70) / 高橋 誼：日高町岩内岳カンラン岩地の植生 (71-78) / 高野秀樹：社の森のスミレたち (79-80) / 小林孝光：鶴川のエンピセンノウはいつからここに? (81-86)

○ 青森県立郷土館調査研究年報 第29号 2005年3月

(〒030-0802 青森県青森市本町2丁目8-14 青森県立郷土館)

柿崎敬一・高谷泰三郎・齋藤信夫・太田正文・神 真波：小川原湖周辺の植物 (5) (5-10)

○ フロラ福島 No. 22 2005年6月

(〒960-0241 福島市笹谷字谷地中3-16 樋口利雄方 福島県植物研究会)

五十嵐 彰・佐藤光雄・須賀紀一・野中俊夫・樋口利雄・渡部秀哉：霊山の植物1—集塊岩上の植物群落 (1-7) / 湯澤陽一・福田廣一：日光国立公園那須・甲子地域の苔類 (9-18) / 野中俊夫：穴平風穴における2002年春の残雪とコミヤマカタバミ (19-20) / 佐藤健司・野中俊夫・山田恒人：ヒカリゴケの新産地について (予報) (21-24) / 湯澤陽一・上野敬子・紺野七美：いわき市本行寺のオハツキエチョウ (25-26) / 樋口利雄：福島市における数種の帰化植物 (27-28) / 樋口利雄・佐藤光雄・五十嵐 彰：福島県レッドデータブック追加候補種 (1) (31-32)

○ 栃木県立博物館研究紀要 第22号 2005年3月

(〒320-0865 栃木県宇都宮市睦町2-2 栃木県立博物館)

富永孝昭：栃木県およびその隣接地域におけるイチョウウキゴケの分布と生態 (11-18)

○ 群馬県立自然史博物館自然史調査報告書 第3号 2005年3月

(〒370-2345 群馬県富岡市上黒岩1674-1 群馬県立自然史博物館)

大森威宏・綿貫 攻：四ツ又山・鹿岳地域の生物・地質調査 (2) 四ツ又山及び鹿岳の岩稜部の植物相と植生 (9-19)

○ 相模原市立博物館研究報告 第 14 集 2005 年 3 月

(〒229-0021 神奈川県相模原市高根 3-1-15 相模原市立博物館)

秋山幸也：ミシマサイコはいつ、どのように相模原から絶滅したのか？ (71-76)

○ 神奈川県立博物館研究報告 自然科学 34 号 2005 年 3 月

(〒250-0031 神奈川県小田原市入生田 499 神奈川県立生命の星・地球博物館)

田中徳久：神奈川県においてレッドデータ植物が集中して分布する地域の抽出 (47-54) / 木場英久・勝山輝男・庄子邦光：イネ科の日本新産帰化植物，ヒトツノコシカニツリ（新称）(61-63) / 勝山輝男・太田久次・松本雅人：三重県で採集された 3 種の日本新産帰化植物 (65-68)

○ 神奈川自然誌資料 第 26 号 2005 年 3 月

(〒250-0031 神奈川県小田原市入生田 499 神奈川県立生命の星・地球博物館)

北川淑子・山田 晋・大久保 悟：谷戸地形における下部谷壁斜面下端の草本層の植物種多様性について—多摩丘陵を例として—(9-14) / 塚田友二・浜口哲一：平塚市における GIS を用いたタンポポ類の分布変化の解析 (15-20) / 河津英子：横浜市円海山緑地の蘚苔類 (21-29) / 佐々木シゲ子：横浜市戸塚区とその周辺の蘚苔類 (31-38) / 逢沢峰昭・尾崎煙雄・齋藤央嗣・藤平量郎：神奈川県丹沢山塊におけるヒメコマツ (*Pinus parviflora*) の分布状況 (67-72)

○ FLORA KANAGAWA No. 59 2005 年 3 月

(〒250-0031 神奈川県小田原市入生田 499 県立博物館内 神奈川県植物誌調査会)

木場英久：ついに野生化したイネ科植物 (728-729) / 秋山幸也：相模原市内でカワラノギクが開花 (729) / 勝山輝男：『神植誌 2001』の分布図の訂正 (729-730) / 金子紀子：ヤマラッキョウの夏緑性について (730-731) / 貴島美鈴：大和市内でコンロンソウを確認 (731) / 木場英久：カラスミギ属の新帰化植物 (731-732)

○ 長野県環境保全研究所研究報告 第 1 号 2005 年 3 月

(〒381-0944 長野市安茂里米村 1978 長野県環境保全研究所)

大塚孝一・尾関雅章・宮入英治：須坂市で再確認された長野県絶滅種スギナモ（スギナモ科）の自生 (63-64)

○ 長野県植物研究会誌 第 38 号 2005 年 6 月

(〒390-8621 松本市旭 3-1-1 信州大学旭合同研究棟生物学教室内 長野県植物研究会)

小泉武栄：風食による植被の破壊がもたらした強風地植物群落の種の多様性—飯豊山地の偽高山帯における事例 (1-9) / 小林正明：信州の植物フェノロジーの研究 14—夏・秋咲き植物 10 種の開花と標高— (11-18) / 増沢武弘・梅津裕里：ハヶ岳の高山植物群落Ⅰ—岩礫地に生育するイワヒゲの生育特性— (19-23) / 佐藤孝幸・渡辺隆一：シラカンパの個体構造と物質生産 (25-28) / 千葉悟志・清水建美：長野県絶滅危惧ⅠB 類ビッチェウフウロの生活史および開花特性—日本産草本植物の生活史研究プロジェクト報告第 5 報— (29-32) / 川上美保子・海野美美子・小野遊子・越石俊江・染野俊哉・渋沢美佐緒・野口喜久子・野々村孝子・村山 顕：長野県青木村のブナ群落 (33-35) / 池田登志男・川上美保子・渋沢美佐緒・篠原 修・藤倉佑子・富士田裕子・三井幸子・林 一六：長野県上田市産モイワナズナの生物学 (37-42) / 宋 立軍・佐藤利幸：サラシナショウマの葉節間の個体内分化の定量形態学—信州の標高に応じたサイズと形の動態— (43-47) / 小山泰弘：長野県におけるササ開花情報 (6)—2004 年— (61-64) / 小山泰弘・丸山勝規・稲村昌弘・土橋幸作：波田学院の森（東筑摩郡波田町）の大径木 (65-69) / 柴田 治・岩岡安民・小林武夫・塩原道雄・高橋新吾：長野県美ヶ原草原（海拔 2000 m）で見られたアースハンモック構造土 (71-72) / 金井弘夫：長野県植物誌資料集による「資料密度」(73-75) / 大塚孝一：故横内斎先生採集の長野県産シダ植物 (77-85) / 横内文人：ハヶ岳の高山植物 (87-94) / 浅野一男：『長野県植物誌』(1997) に追加される下伊那地方産の植物 (2) (95-113) / 浅野一男：下伊那教育会館所蔵維管束植物標本目録 1 (115-126) / 清水建美（編）：「長野県植物誌」補遺 (8) (127-131) / 上野勝典・上野由貴枝：長野県産シダ植物の新産地 (2) (133-136) / 上野勝典・上野由貴枝：新産地報告 (2) (137-138) / 松永守祐：西（木曽）駒ヶ岳、ハヶ岳の高山植物と思い出 (139-141) / 大平仁一：栄村の植物と私の大切なヒメカイウ (142)

○ 伊那谷自然史論集 Vol.6 2005 年 3 月

(〒395-0034 長野県飯田市追手町 2-655-7 飯田市美術博物館)

勝木俊雄・逢沢峰昭・明石浩司・島田健一・島田和則：長野県大鹿村におけるヤツガタケトウヒとヒメバラモミ絶滅の現状 —南限地の絶滅危惧種— (71-76) / 小林正明：信州の植物フェノロジーの研究 12：飯田市と名古屋近郊の被子植物の開花フェノロジーの比較と蕾・果実の生育について (77-104) / 小林正明：信州の植物フェノロジーの研究 13：メマツヨイグサの開花と標高について (105-111) / 木下 進：長野県下伊那郡における帰化植物の侵入現況 (113-119)

○ 富山の生物 44 号 2005 年 3 月

(〒930-8555 富山市五福 3190 富山大学教育学部生物学研究室 富山県生物学会)

山崎貴博・岩坪美兼：六倍体オオバコの状態と富山県における分布 (19-22) / 白山理恵・砂子田真菜・高見もも子・高柳智子・濱屋宏衣・廣本祥子・村上真理奈・佐藤杏子・山崎貴博・岩坪美兼：能登島産カキドオシの倍数性 (23-25) / 佐藤 卓・平内好子・野口 泉・松村 勉：富山県上市町眼目と大松のモミ林の森林構造とササラダニ群集 (27-38) / 佐藤 卓：2004 年全国ブナ結実状況 (39-44) / 長井幸雄：富山県植物雑記 (9) 城ヶ平山の植物相の概況 (45-54)

○ 河北潟総合研究 第 8 巻 2005 年 3 月

(〒920-0267 石川県河北郡内灘町字大清台 302 NPO 法人河北潟湖沼研究所)

高橋 久・川原奈苗・白井伸和・永坂正夫：ホテイアオイ除去および部分浚渫後の河北潟西部承水路における水生植物の状態 (13-22) / 白井伸和・川原奈苗・高橋 久：河北潟の沿岸帯の植生—主に金腐川河口域周辺について— (23-30)

○ 福井市自然史博物館研究報告 第 51 号 2004 年 12 月

(〒918-8006 福井市足羽上町 147 福井市自然史博物館)

赤井賢成：福井県のフロラに関する資料 (その 1) (37-56) / 保科英人：野生グマに対する餌付け行為としてのドングリ散布の是非について—保全生物学的観点から— (57-62)

○ 福井総合植物園紀要 第 3 号 2005 年 3 月

(〒916-0146 福井県丹生郡朝日町朝日 17-3-1 福井総合植物園)

小林幹夫：日本産タケ類の同定と分類 (1-18) / 河野晃子・山品美紀・森田竜義：ツルアリドウシの異型花柱性 (19-25) / 勝山輝男：ミヤマカンスゲとその近縁種の分類 (27-39) / 松本 淳：福井県の変形菌類Ⅱ：福井県産変形菌類の分類学的再検討Ⅰ (41-45)

○ 岐阜県植物研究会誌 第 20 巻 2004 年 12 月

(〒501-1193 岐阜県岐阜市柳戸 岐阜大学教育学部生物学教室植物分類研究室内 岐阜県植物研究会)

清水明子・清水英彦：岐阜県におけるイバラモ科 2 種の新産地 (1-4) / 奥田桂介・荻山恒弘：岐阜県におけるデンジソウ (*Marsilea crenata* C. Presl) の再確認とシードバンクの可能性 (5-10) / 福岡義洋：イガクサの岐阜県における分布 (11-12) / 村瀬正成：岐阜県で初めて採集されたアカウキクサ属の一種について (13-16) / 河合大海・河合 清：稀産シダ、オオクボシダおよびチチブホラゴケの県内新自生地 (17-18) / 千葉克彦：岐阜県の植生史 (旧石器-縄文-弥生時代)—埋蔵文化財発掘調査からわかってきたこと— (19-29) / 高橋 弘：岐阜県のシオデ属 (シオデ科) (30-41) / 高橋 弘：岐阜県に見られるユリ科植物Ⅰ (42-56) / 高橋 弘：オヤマボクチとヤマボクチに関するノート (57-60) / 高橋 弘：裸子植物の受粉 (2) (61-74)

○ ため池の自然 第 40 号 2004 年 12 月

(〒480-1195 愛知県愛知郡長久手町岩作 愛知医科大学医学部寄生虫学教室 近藤繁生方 ため池の自然研究会)

和田富吉：マコモと水田；ため池はどう関係するのか？ (1-8) / 浜島繁隆・和田富吉：台風によるガガブタの被害 (17-18) / 飯尾俊介：愛知県森林公園の湿地—追跡調査の結果から見えてきたもの— (19-26)

○ 鳳来寺山自然科学博物館館報 第34号 2005年3月

(〒441-1944 愛知県南設楽郡鳳来町門谷森脇6 鳳来町立鳳来寺山自然科学博物館)

中西 正・柴田美子：大森湿地の植生 (9-24)

○ 京都植物 第28巻

(京都植物同好会 幹事：〒606-0026 京都市左京区岩倉長谷町486 1F 1-3 田中 徹)

1号 2005年1月—村田 源・津軽俊介：京都府新産植物20 (3-6) / 村田 源：ヨサノハゴロモナナカマド (6-8) / 西澤信一：気になる植物 (8-9) / 西澤信一：溪流沿い植物 (9-10) / 小柳道子〔京都の植物方言調査〕左京区広河原杵子屋町における聞き書き (10-12) / 田中 徹：アメリカミズキンバイの直上通気根 (13-14) / 川辺龍太郎：小学校の樹木調査から—西陣中央小のシラカバ— (15-17) / 田中 徹：オオバノウマノズクサ宝ヶ池に出現！ (17)

2号 2005年4月—村田 源・津軽俊介：京都府新産植物21 (4-7) / 村田 源：京都府レッドデータブックにタマミクリとされていたのはナガエミクリの誤認であった (8) / 上島 裕：ナニワイバラの近況報告 (9-11) / 津軽俊介：アマナには地下茎が存在する (11-14)

○ みねはな 第52号 2005年3月

(〒603-8112 京都市北区小山元町44 吉川直人方 みねはな会)

神野一郎：イチビ (1-7) / 村田 源：センノウ雑誌 (8-12) / 生田秀昭：仙翁か撫子か (13-15) / 片山泰雄：石立山調査補遺2 (16) / 日原誠介：日本レッド・データ・プランツ繁殖記 (8) —草原の植物— (17-21) / 神園英彦：長年にわたる熱望！トラキチランの表敬訪問 (22-23) / 橋本 薫：コバイモを追って (26-28) / 楠原良三：岡山県高梁川流域を訪ねて—石灰岩地帯に自生している植物— (29-31) / 岡村 栄：コバイモの素心花 (白花) を探して (32-33) / 井上康彦：八重咲きの彼岸花 (34) / 高橋 亮・西山 喬：八幡市 (京都) のアサザ (35-36) / 清水美重子：カガブタ (37-38) / 井上康彦：摩訶不思議、屋久島の森 (39-42) / 森 和男：日本山草史・明治編Ⅱ (43-54) / 吉川直人：インドネシア、バリ島のラン (55) / 斎木保久：キンドンウォードのシャクナゲ (56-72) / 日原誠介：中国とヒマラヤのマンテマ (73-74) / 久志博信：スイスアルプスの花、二年間の相違 (75-77) / 吉川直人：サハリンをタイプ・ロカリティとする植物 (78-79) / 西口紀雄：静岡県のジンリョウユリを求めて (80-85) / 村谷克彦：ニジガハマギクの咲く公園 (86) / 高橋亮：伊豆のカンアオイ (87-88) / 美崎英生・陽子：四川省の花旅 (125-140)

○ 人と自然 第15号 2005年3月

(〒669-1546 兵庫県三田市弥生が丘6丁目 兵庫県立人と自然の博物館)

服部 保・南山典子・武田義明：綾南川上流域における照葉原生林と二次林・人工林の種組成および種多様性の比較 (1-8) / 岩崎絢子・石田弘明：兵庫県南東部における孤立社寺林の植生構造—林縁効果の及ぶ範囲と最小保全面積の推定— (29-42) / 服部 保・南山典子：シーカシータブ林 (照葉樹林) に関する群系上の用語 (47-60) / 橋本佳延・服部 保・小館誓治・南山典子・赤松弘治：猪名川中流域におけるニセアカシアの分布拡大 (61-68) / 田中敦司・西村直樹・秋山弘之：兵庫県西播磨の蘚苔類 (69-92) / 福岡誠行・黒崎史平・高橋 晃 (編)：兵庫県産維管束植物6 (93-146)

○ 兵庫の植物 第15号 2005年5月

(〒654-0121 明石市大蔵谷清水583-36 小林禮樹 兵庫県植物誌研究会)

小林禮樹・黒崎史平：兵庫県を分布限界とする植物の標本と文献 (3-38) / 織田二郎：兵庫県で注目されるいくつかのスゲ属植物 (39-42) / 迫田昌宏：標本採集がむずかしい植物 (3) アゼオトギリ (43-46) / 藤本義昭：イネ科植物の蒴 (4) (47-84) / 水田光雄：ウマゴヤシ属における莢果の形態の特徴 (85-92) / 布施静香：六甲山のショウジョウバカマとシロバナショウジョウバカマ (シュロソウ科、広義ユリ科) の雑種について (93-96) / 中澤博子：美方郡浜坂町でみつかったミツガシワ (ミツガシワ科) の新産地 (97-98) / 矢内正弘：兵庫県産の植物図 (4) フサザクラ科、トウダイグサ科、ニガキ科、カエデ科、ミツバウツギ科 (99-142) / 白岩卓巳：兵庫県とタキミシダ (143-148) / 矢内正弘：兵庫県産絶滅危惧植物の昔と今 (149-173) / 山本一潔：相生市鉄砲山海岸におけるシバナ群落の保護・保全活動について (175-178)

- 岡山県自然保護センター研究報告 第12号 2004年12月
(〒709-0524 岡山県和気郡佐伯町田賀730 岡山県自然保護センター)
片岡博行・西本 孝：岡山県における外来食虫植物の侵入状況(31-37)／西本 孝：岡山県自然保護センター湿生植物園 6. 設立後10年目から13年目までの管理(39-48)／地職 恵・高野佳郎・西村直樹：岡山県新産の蘇類、ホウライスギゴケ(49-51)
- 広島市植物公園紀要 第22・23号 2005年3月
(〒731-5156 広島市佐伯区倉重三丁目495 広島市植物公園)
唐澤耕司・青山幹男・石田源次郎：ラン科、*Selenipedium aequinoctiale* Garay における核形態学的研究(1-4)／広島市植物公園(編)：高木リスト 広島県産高等植物目録(5-129)
- 比婆科学 第215号 2005年4月
(〒727-0013 広島県庄原市西本町1丁目7-7 中村慎吾方 比婆科学教育振興会)
桑田健吾：三次市内でキレハ(モミジ)ヒメオドリコソウを確認(33)
- 佐賀自然史研究 第11号 2005年4月
(〒849-0303 佐賀県小城市津町大字牛津152-4 上赤博文方 佐賀自然史研究会)
野村周平：佐賀県の自然史を記録することの意味、そして博物館の役割(1-6)／上赤博文：佐賀県相知町「アザメの瀬」～自然再生事業以前の植生と植物相(7-14)／岩村政浩：レッドデータブックさが追加候補植物(3)(15-18)
- BOTANY No. 54 2004年12月
(〒860-0007 熊本市古京町3-2 熊本博物館内 熊本記念植物採集会)
瀬井龍蔵・庵 伸之・初島住彦：最近九州で発見された九州新産のアザミについて(1-2)／小林嘉光・初島住彦：最近天草で発見された分布上注目すべき植物(3-5)／乙益正隆：熊本県のメシダ科(1)(6-40)／畑中幸次郎：熊本県の希少植物の生育環境について(1)―ツキヌキオトギリ、コイヌガラシ―(41-46)
- 宮崎県総合博物館研究紀要 第26輯 2005年3月
(〒880-0053 宮崎市神宮2丁目4-4 宮崎県総合博物館)
斉藤政美・南谷忠志：再発見されたソハヤキミズ(13-18)／黒木秀一・斉藤政美・宮崎県総合博物館野外調査会：野外調査会調査報告「青島の野生植物」(19-30)／荒木徳蔵：宮崎県の帰化植物新目録(4)(31-40)
- 鹿児島県立博物館研究報告 第24号 2005年3月
(〒892-0853 鹿児島市城山町1-1 鹿児島県立博物館)
森田康夫：トカラ列島平島の植物採集記録(20-27)／森田康夫：大隈半島南部における植物採集記録(52-60)／森田康夫：奄美大島南部における植物採集記録(61-70)

(編集部 中田政司編)

会 記

2004 年度会計報告 (2004 年 1 月 1 日～12 月 31 日)

○植物地理・分類学会

収入 (A)	4,665,691円	支出 (B)	3,114,855円
会費	2,138,000	雑誌印刷費	2,110,500
バックナンバー	102,000	(51-2, 52-1)	
書籍売上	54,600	雑誌送料	149,130
別刷代金	215,500	通信費	68,630
超過ページ組賃	240,000	編集事務	100,000
カラー図版代金	80,000	英文校閲	50,000
利息	8	会計事務	79,000
雑収入 (論文抄録等)	53,060	庶務事務	129,364 (内訳)
総会参加費	14,100	雑誌等発送アルバイト代	47,000
前年度繰越金	1,768,423	文具等	3,828
		封筒等	29,736
		レーザーポインター購入費	48,800
		ニュースレター送料	94,640
		会議旅費	172,000
		自然史学会連合負担金	20,000
		学会運営費	51,000
		雑支出	1,948
		総会関係	88,643 (内訳)
		運営費	38,796
		茶菓料	3,727
		招待講演費	37,000
		懇親会等補助	9,120

差引 (A-B) 1,550,836 円 (次年度へ繰越し)

○植物地理・分類学会後援会

収入 (A)	1,125,049円	支出 (B)	112,000円
醸金 (0 件)	0	審査会議費	27,000
前年度繰越金	1,125,049	授賞金	50,000
		受賞者旅費・宿泊費	35,000
		文具等	0

差引 (A-B) 1,013,049 円 (次年度へ繰越し)

新入会員 (2004 年 12 月～2005 年 7 月)

12 月 22 日	王 林	〒240-8501	横浜市保土ヶ谷区常盤台 79-7 横浜国立大学大学院環境情報学府植生研究室
12 月 28 日	吉野 知明	〒272-0832	千葉市川市曾谷 4-27-13 コーポクヤ 203
1 月 11 日	瀬野 純一	〒625-0087	舞鶴市余部下 1105
1 月 13 日	藤井 伸二	〒444-3505	岡崎市本宿町上三本松 6-2 人間環境大学
2 月 23 日	和田 覚	〒019-2611	秋田市河辺戸島字井戸尻台 47-2 秋田県森林技術センター
3 月 8 日	谷 友和	〒930-8555	富山市五福 3190 富山大学極東地域研究センター

3月17日	村中 孝司	〒113-8657	東京都文京区弥生 1-1-1 東京大学農学生命科学研究科
3月22日	花森功仁子	〒422-8057	静岡県駿河区見瀬 28-2-601
3月22日	柴平志保子	〒384-0011	小諸市赤坂 2-6-5
4月 4日	宮澤 誠治	〒060-0810	札幌市北区北 10 条西 8 丁目 北海道大学総合博物館
5月 2日	丸山まさみ	〒061-1136	北広島市松葉町 2-4-3
5月 9日	加藤ゆき恵	〒001-0014	札幌市北区北 14 条西 4 丁目 10-2 藤丘ビル北 14 条 502
5月11日	笠木 哲也	〒920-1192	金沢市角間町 金沢大学角間の里山自然学校
6月16日	山田 直毅	〒331-0802	さいたま市北区本郷町 724
6月24日	飯田市美術博物館	〒395-0034	飯田市追手町 2-655
6月30日	玉城 栄子	〒905-1152	名護市伊差川 24-1 (社)沖縄建設弘済会 技術環境研究所
7月11日	蛭間 啓	〒395-0806	飯田市鼎上山 3610-1 小森アパート 5 号
7月22日	中村 肇	〒491-0835	一宮市あずら 1-17-14

退会会員 (2004 年 12 月～2005 年 7 月)

伊藤美千穂	〒606-8501	京都市左京区吉田下阿達町 46-29 京都大学大学院薬学研究科
緒方 健	〒305-0041	つくば市上広岡 460-44
小川 憲彰	〒916-0131	福井県丹生郡朝日町乙坂 22-8-1 (死去)
尾崎 富衛	〒950-2015	新潟市西小針台 2-8-30 (死去)
加藤 恵一	〒474-0061	大府市共和町 6-40 コーポメープル 102 号
北川 淑子	〒225-0011	横浜市青葉区あざみ野 3-1-6-205
栗原 智昭	〒882-1621	宮崎県西臼杵郡高千穂町岩戸 6462-8
小林 義雄	〒183-0021	府中市片町 2-23-1
鈴木 和雄	〒770-8502	徳島市南常三島町 1-1 徳島大学総合科学部自然システム学科生命環境コース(死去)
太刀掛 優	〒737-0103	呉市広塩焼 2-8-12
出村 幹英	〒920-1192	金沢市角間町 金沢大学大学院自然科学研究科
寺下友三郎	〒927-0612	石川県珠洲郡内浦町秋吉 8-18-1 (死去)
中島久美子	〒862-0971	熊本市大江 2-2-39 学苑住宅 3-31
西村 直樹	〒717-0602	岡山県真庭郡川上村上福田 岡山理科大学蒜山研究所
服部 陽子	〒330-0800	さいたま市土呂町 2-72-10 ラフィーネ OJIMA 108
馬場 篤	〒969-6223	福島県大沼郡会津高田町大字旭寺入 195
百瀬 剛	〒390-1401	長野県東筑摩郡池田町 5475-11
山本 久子	〒920-1148	金沢市金川町ホ-3 北陸大学薬学部
滋賀県琵琶湖研究所	〒520-0806	大津市打出浜 1-10

住所・氏名変更及び訂正 (2004 年 12 月～2005 年 7 月)

佐々木純一	〒078-2607	北海道雨竜郡雨竜町 <u>7 区</u> → 〒078-2607 北海道雨竜郡雨竜町字尾白利加 <u>91-85</u>
佐々木博昭	〒950-0971	新潟市 <u>近江 282-9</u> → 〒950-0973 新潟市 <u>上近江 2-8-20</u>
笹村 和幸	〒930-0884	<u>富山市五福末広町 2310</u> <u>ハイツ吉田 221</u> → 〒112-0012 東京都文京区大塚 <u>6-25-4</u> <u>ダイサン荘 101 号</u>
中池 敏之	〒260-8882	千葉市中央区青葉町 <u>955-2</u> <u>千葉県立中央博物館</u> → 〒158-0098 東京都世田谷区上野 <u>2-5-2-307</u>
角野 康郎	〒657-8501	神戸市灘区 <u>鶴甲 1-2-1</u> 神戸大学理学部生物学科 → 〒657-8501 神戸市灘区 <u>六甲台町 1-1</u> 神戸大学理学部生物学科
渡辺 邦秋	〒657-8501	神戸市灘区 <u>鶴甲 1-2-1</u> 神戸大学理学部生物学科 → 〒657-8501 神戸市灘区 <u>六甲台町 1-1</u> 神戸大学理学部生物学科
白崎 仁	〒950-2081	新潟市 <u>上新栄町 5-13-2</u> 新潟薬科大学生物学科教室 → 〒956-8603 新潟市東

- 島 265-1 新潟薬科大学生物学教室
- 今江 正知 〒862-0928 熊本市新南部 2-5-12 → 〒861-8028 熊本市新南部 2-5-12
- 後藤 稔治 〒503-0857 大垣市美和町 1784 岐阜県立大垣東高校 → 〒509-6133 瑞浪市明世町戸狩
54 岐阜県先端科学技術体験センター
- 笹川 通博 〒956-0832 新津市秋葉 1-19-1 新潟県立新津高等学校 → 〒940-0041 長岡市学校町 3-
14-1 新潟県立長岡高等学校
- 竹中 則夫 〒872-1105 大分県西国東郡真玉町大字西真玉 5737-10 → 〒872-1105 豊後高田市西真玉
5737-10
- 森田 弘彦 〒833-0041 筑後市和泉 496 九州沖縄農業研究センター → 〒943-0193 上越市稲田 1-2
-1 北陸研究センター
- 等々力政彦 〒399-7101 東筑摩郡明科町大字東川手 464-5 → 〒563-0036 池田市豊島北 2-7-18-202
- 松井 浩 〒949-2101 新潟県中頸城郡妙高高原町二俣 1526-164 → 〒949-2101 妙高市大字二俣
1526-164
- 沖田 貞敏 〒014-0063 大曲市日の出町 1-20-16-4 → 〒014-0063 大仙市大曲日の出町 1-20-16-4
- 中垣 明子 〒390-1701 長野県南安曇郡梓川村大字倭 3708-1 (株)環境アセスメントセンター松本研究室
→ 〒390-1701 松本市梓川倭 3708-1 (株)環境アセスメントセンター松本研究室
- 真崎 久 〒753-0811 山口市吉敷 3338-65 下京面住宅 204 → 〒743-0052 光市三井 6 丁目 14-1-
303
- 下田 路子 〒730-0045 広島市中区鶴見町 14-21 → 〒417-0801 富士市大淵 325 富士常葉大学環境
防災学部
- 高田 眞一 〒719-2342 岡山県川上郡成羽町中野 2937 → 〒719-2342 高梁市成羽町中野 2937
- 持田 誠 〒060-0003 札幌市中央区北 3 条西 8 丁目 北海道大学農学部附属植物園 →
〒060-0810 札幌市北区北 10 条西 8 丁目 北海道大学総合博物館生物系準備室
- 橘 ヒサ子 〒070-8621 旭川市北門町 9 北海道教育大学旭川分校 → 〒023-0831 水沢市姉妹町字水
ノ口前 49-2
- 北畠 琢郎 〒076-0032 富良野市若松町 3-33 → 〒069-0236 北海道空知郡南幌町西町 4-1-17
- 村田 威夫 〒285-0033 佐倉市鍋山町 18 佐倉高等学校 → 〒285-0825 佐倉市江原台 1-18-16
- 黒田 明穂 〒912-0021 大野市中野 62-6-2 教職員寮 2 号室 → 〒910-0293 福井県坂井郡丸岡町篠
岡 23-11-1 福井県立丸岡高等学校
- 阿部 聖哉 〒270-0021 松戸市小金原 1-19-1 エコビレッジ松戸 101 → 〒271-0092 松戸市松戸
1276-1 ファミールスクウェア松戸 11-3 コモンズ 913
- 富永 達 〒619-0244 京都府相楽郡精華町北稲八間 京都府立大学農学部付属農場 → 〒606-8502
京都市左京区北白川追分町 京都大学農学研究科雑草学研究室
- 大久保 敦 〒753-0861 山口市矢原 1325-1 ハイランドパーク 201 → 〒591-8046 堺市東三国ヶ丘
町 2-1-4-608
- 斉木 保久 〒422-8021 静岡市小鹿 862 → 〒422-8021 静岡市駿河区小鹿 862
- 武田 究 〒919-1543 福井県遠敷郡上中町天徳寺 34-8 → 〒919-1543 福井県三方上中郡若狭町天
徳寺 34-8
- 竹迫 賢一 〒895-0061 川内市御陵下町 5476-4 → 〒895-0061 薩摩川内市御陵下町 5476-4
- 小林 悟志 〒464-8601 名古屋市中区千種区不老町 名古屋大学大学院人間情報学研究科環境システム →
〒101-8430 東京都千代田区一ツ橋 2-1-2 学術情報センタービル国立情報学研究所
- 星 良和 〒836-8585 大牟田市東萩尾町 150 有明工業高等専門学校 → 〒869-1404 熊本県阿蘇郡
南阿蘇村大字河陽 九州東海大学農学部応用植物科学科
- 菊池多賀夫 〒240-8501 横浜市保土ヶ谷区常盤台 79-7 横浜国立大学環境情報研究院 → 〒982-0033
仙台市太白区富田字上野中 119-8
- 秋丸 浩毅 〒745-0831 徳山市楠木 1 丁目 1-14-2 → 〒745-0831 周南市楠木 1 丁目 1-14-2
- 花井 隆晃 〒474-0043 大府市米田町 1-247 → 〒474-0043 大府市米田町 1-336-4
- 中田 政司 〒939-2713 富山県婦負郡婦中町上轡田 42 富山県中央植物園 → 〒939-2713 富山県婦
中町上轡田 42 富山県中央植物園

高橋 一臣	〒939-2713	<u>富山県婦負郡婦中町上轡田 42</u>	富山県中央植物園	→	〒939-2713	<u>富山市婦中町上轡田 42</u>	富山県中央植物園
山下 寿之	〒939-2713	<u>富山県婦負郡婦中町上轡田 42</u>	富山県中央植物園	→	〒939-2713	<u>富山市婦中町上轡田 42</u>	富山県中央植物園
兼本 正	〒939-2713	<u>富山県婦負郡婦中町上轡田 42</u>	富山県中央植物園	→	〒939-2713	<u>富山市婦中町上轡田 42</u>	富山県中央植物園
志内 利明	〒939-2713	<u>富山県婦負郡婦中町上轡田 42</u>	富山県中央植物園	→	〒939-2713	<u>富山市婦中町上轡田 42</u>	富山県中央植物園
大原 隆明	〒939-2713	<u>富山県婦負郡婦中町上轡田 42</u>	富山県中央植物園	→	〒939-2713	<u>富山市婦中町上轡田 42</u>	富山県中央植物園
南 正祝	〒518-1155	<u>上野市治田 5216-1</u>	→	〒518-1155	<u>伊賀市治田 5216-1</u>		

「植物地理・分類学会 2005 年度大会」

2005 年度大会は 6 月 4 日(土)にホテル信濃路(長野県長野市)で行われた。

総会は午後 1 時から開始され、はじめに松田行雄氏を議長に選出した。庶務幹事から 2004 年 6 月から 2005 年 5 月までの活動報告が行われ、会誌の発行状況、幹事会・評議員会での審議内容、等が報告された。引き続き 2004 年度の会計報告が行われた(会計幹事が出席できなかったため庶務幹事が報告)。会計監査の佐藤 卓氏より会計報告に誤りがないとの報告が行われ、質疑ののち会計報告は総会で承認された。編集委員長から会誌「植物地理・分類研究」の 53 巻の編集状況について報告があった。引き続き議事は協議事項に移った。はじめに会長から会則改正案が示された。今回の提案では会計年度の変更、会員の除名・除籍等が主な改正点である。質疑ののち満場一致で改正案は可決された。新しい会則は 2005 年 6 月 4 日から施行され、本号の 116 頁に掲載されている。庶務幹事と会計幹事(庶務幹事が代行)から 2005 年度の活動計画と予算案が提示され質疑のあと承認された。鳴橋会長から清水建美氏と綿野泰行氏を特別会員として推薦したいとの提案があり、質疑の後に満場一致で可決された。執行部からの提案事項は以上であり、会員からの動議等は 1 件もなく総会は時間内に全て終了した。

午後 2 時から「植物地理・分類学会賞」の授賞式が行われた。鳴橋会長が学会賞審査委員会の審査報告を読みあげた。受賞者の滝田謙讓氏が体調をくずされ授賞式に出席できなかったことはまことに残念であった。その後 2 つの招待講演と 2 つの特別講演を行い、17 時 30 分に計画どおりすべて終了した。なお、今年度一般講演は行わなかった。

招待講演 1

沖津 進(千葉大学)：北海道の植生垂直分布と極東ロシアの対応植生

招待講演 2

増沢武弘(静岡大学)：白馬岳と八ヶ岳の山岳地形の違いと高山植物の分布について

特別講演 1

井田秀行(信州大学)：なぜ豪雪地ではブナが純林となるのか？

特別講演 2

大塚孝一・尾関雅章(長野県環境保全研究所)：中条村虫倉山の植物

午後 6 時 30 分からホテル信濃路で懇親会が和やかに行われ、午後 9 時に散会した。



エクスカージョン参加記

第 53 回大会のエクスカージョンは、6 月 5 日(日)長野県中条村虫倉山において行われた。参加者 32 名は、午前 8 時 30 分にそれぞれ車に分乗して長野市を出発し、国道 19 号線より県道大町白馬線へ進み、途中より中条村へと向かった。目指す虫倉山(1378 m)は、子どもの守り神様として多くの人々より信仰を受けて「神さまのすむ山」として、小川村、鬼無里村、そして中条村に裾野を広げている。棚田のあるひなびた里山風景の村内をのぼりつめて不動滝登山口に到着した。たどり着いた駐車場脇にヒゴクサが咲いていて印象に残った。身支度を整えて登り始めると、足元でハルユキノシタの白い花が咲いており、続いてマルバゴマギ、スミレサイシン、オクチョウジザクラ、チャボガヤなど日本海側要素である植物をみることができた。登山道脇にササバギンランかギンランか、はっきり特徴の現れていないラン科植物がつぼみ状態で現れみんなの論議となった。また、メグスリノキ、ミツデカエデ、オヒョウ、チドリノキなどはあまり出会うことのない樹木であるが、虫倉山には多く生育していて、ゆっくりと観察ができた。虫倉山は、信仰の山らしくいくつもの登山口があるが、不動滝コースは利用者が多く何人かの登山者と行き会う。信州百名山のひとつとして人気が高いこともうなずけるが、植物観察のコースとしても適している良い山と思った。

今回の観察路ではブナ、ミズナラ、コナラをはじめとしてカエデ科ではミツデカエデ、ウリハダカエデ、アサノハカエデ、オオモミジ、ハウチワカエデ、コハウチワカエデ、チドリノキ、オニイタヤ、ウラゲエンコウカエデなど多くの落葉樹が生育していた。また、アオチドリ、クサボタン、ラショウモンカズラ、オニシモツ

ケ、フクシマシャジンなどやや湿地を好む植物が多くみられた。

頂上ちかくの平地で昼食とし、帰路も同じ道を下って2時すぎに駐車場で解散とした。滝より少し下った湿地にイチリンソウがわずかに咲いていて無事の下山を喜んでいるかのようにであった。

観察できた主な植物

ミヤマエンレイソウ、アオチドリ、チゴユリ、アマドコロ、ハナイカダ、イブキヌカボ、カワラスゲ、イワシロイノデ、オオヤマザクラ、ヤブデマリ、キビナワシロイチゴ、クビキダイコンソウ、タチフウ

ロ、オニルリソウ、キツリフネソウ、ホウチャクソウ、ヤマブドウ、サワギク、シュロソウ、フサザクラ、ヤマハタザオ、オオヨモギ、フキ、ヒメジョオン、シナノキ、ミミナグサ、ノビネチドリ、ミヤマクマワラビ、ホオノキ、ミヤマザクラ、ウワミズザクラ、ツタウルシ、ヨツバヒヨドリ、ヤマボウシ、シラカンバ、ヤマニガナ、エゾノコリンゴ、タガネソウ、ミゾイチゴツナギ、アオスゲ、アオダモ、ツクバネウツギ、ケタチツボスミレ、シシガシラ、ミツバツチグリ、ケイタドリ、ミツバ、トリアシショウマ、ガマズミ、アオハコベ、オオスズメノカタビラ、ミヤマカンスゲ、ヤグルマソウ、オオタチツボスミレ、ヤマブキ、ルイヨウボタン、ウリノキ、コメガヤ、イヌワラビ、ミヤマハハソ、ヒメウツギ、シナノザサ、ミヤマニガウリ、ヒナスミレ、オニタビラコ、ニワトコ、カンボク、サワグルミ、ミズキ、カメバヒキオコシ、コカンスゲ、ナガハシスミレ、ジャニンジン、イヌトウバナ、ハンショウズル、ヒロハツリバナ、コケイラン、アズキナシ、メギ、カマツカ、ハリギリ、クロツバラ

(長野県環境保全研究所 川上美保子)



植物地理・分類学会 会則

- 第 1 条 本会は、植物地理・分類学会と称する。
- 第 2 条 本会は、植物系統分類学、植物地理学、植物生態学および植物自然史関連分野の進歩普及を図り、あわせて会員相互の連絡および親睦を図ることを目的とする。
- 第 3 条 本会は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。
1. 研究会、講演会、シンポジウム、観察会等を開催する。
 2. 会誌その他の出版物を刊行する。会誌「植物地理・分類研究」は原則として年 2 回発行する。
 3. 植物系統分類学、植物地理学、植物生態学および植物自然史関連分野に関係した調査、研究の業績、または教育的な貢献が著しい会員を表彰する。
- 第 4 条 本会の事業年度は 4 月 1 日に始まり 3 月 31 日に終わる。
- 第 5 条 会員は普通会員、学生会員、団体会員、賛助会員および特別会員とする。
1. 普通会員、学生会員、団体会員および賛助会員は、本会の趣旨に賛同し、それぞれ所定の会費を納める個人または団体。
 2. 特別会員は、本会の発展に著しい功績のあった個人で、幹事会の議を経て会長が推薦し総会の承認を受けた者。特別会員は会費の納入を要しない。
- 第 6 条 普通会員、学生会員、団体会員および賛助会員は、会費を前納（前年度の 3 月末日まで）しなければならない。なお、納入された会費は返付しない。
- 第 7 条 会員は、会誌の配布を受け、あわせて会誌に投稿すること、ニュースレターの配布を受けること、本会主催の諸会合に出席することができる。
- 第 8 条 新しく会員になろうとするものは、当年度の会費を添えて本会事務局に申し込むこと。退会する場合は本会事務局に届け出なければならない。会費に滞納があるときは、未納分を納めなければならない。
- 第 9 条 会員が次の各項に該当するときは、幹事会の議決を経て次の措置をとることができる。
1. 本会の名誉を著しく傷つけ、または本会の目的に反する行為のあったときは、除名する。
 2. 会費を 2 年間滞納したときは、除籍する。
- 第 10 条 本会の最高決定機関として総会を置く。総会は毎年 1 回開催する。総会での議決は出席者の過半数の賛成を以て行う。ただし会則の改正には出席者の 2/3 以上の賛成を要する。
- 第 11 条 本会に幹事会を置く。幹事会は本会の運営を行う。幹事は会長、庶務幹事、会計幹事、編集委員長各 1 名、およびその他若干名とし、総会において選出する。これらの役員の任期は 2 年とする。
- 第 12 条 本会に編集委員会を置く。編集委員会は編集委員長、主任編集委員および編集委員で構成し、編集委員長がこれを代表する。主任編集委員 1 名、編集委員は若干名とし、編集委員長が幹事会にはかって委嘱する。委員の任期は 2 年とする。
- 第 13 条 本会に評議員会を置く。評議員会は会長の諮問に応じ、会務の重要事項を審議する。評議員会は総会において選出された評議員若干名で構成し、任期は 2 年とする。
- 第 14 条 本会に監査員を 2 名置く。任期は 2 年とし、総会において選出する。
- 付則 1. この規約は 1990 年 6 月 2 日から施行する。
- 付則 2. 第 12 条の規定に関わらず会長は編集委員長を兼ねることができる。
- 付則 3. この規約は 2001 年 6 月 2 日から施行する。
- 付則 4. この規約は 2002 年 6 月 1 日から施行する。
- 付則 5. この規約は 2005 年 6 月 4 日から施行する。ただし 2005 年度は、第 4 条の規定に関わらず事業年度は 2005 年 1 月 1 日から 2006 年 3 月 31 日とする。

2005 年度植物地理・分類学会賞の審査結果について

2005 年植物地理・分類学会賞の受賞者は、審査委員会による厳正な審査の結果、下記のように決定いたしました。

受賞者 滝田 謙謙

北海道釧路市武佐 2-34-21

推薦者 高橋 英樹（北海道大学総合博物館）

滝田謙謙氏は山形県のご出身で、旧制北海道学芸大学釧路分校をご卒業後、釧路市内の中学校に 1952 年から 1991 年まで勤務された。1996 年から 2004 年まで北海道教育大学教育学部釧路校の非常勤講師を務められた。

滝田氏は中学校勤務のかたわら北海道東部釧路地方を広く調査され、植物相解明に尽力された。その後、植物相調査の対象地域を北海道全体に広げられた。滝田氏の興味は維管束植物からミズゴケまでおよび、調査の成果は「東北海道の植物」（1987）、釧路市立郷土博物館、ひがし大雪博物館、美幌博物館等の紀要や研究報告、MIYABEA、等に発表されている。滝田氏のそれまでの一連の研究は「北海道植物図譜」（2001）としてまとめられた。これは自費出版で、北海道に自生する植物種のほとんどが線画によって示されている点が大きな特色である。この本の出版によりこれまで難しいとされてきた植物群の同定が速やかに行えるようになったことが地元で高く評価されている。また、多数の新産地が記載され、さらに分類学上の問題点の指摘がなされている。線画の元になった証拠標本は釧路市郷土博物館（約 2000 点）や北海道大学付属植物園（コケ植物 約 4200 点、維管束植物 約 6000 点）などの公的機関に寄贈され、研究者であれば誰でも参考にすることができるように配慮されている。これらの出版物や標本は北海道各地の地域植物相解明を進展させる上で大きな功績を果たしたと高く評価できる。

滝田氏は社会活動や教育的な活動においても大きな貢献をされている。滝田氏は日本自然保護協会第一次レッドデータブック植物作成委員（1989-1991）、環境庁委託絶滅危惧植物調査委員（1994-1996）、環境省第二次レッドリスク見直し調査主任調査員（2003-2005）などを務められ植物の保全活動にも深く関わってこられた。また、北海道各地の植物研究グループに対して植物の同定や自生地情報を通じて多くの助言等をされている。

以上のように滝田謙謙氏の業績は、植物地理学および植物分類学の分野において学術的、教育的および社会活動の見地からまことに顕著であり、植物地理・分類学会賞を授賞するにふさわしい方である、と審査委員会は全員一致で決定した。同氏には今後ともいっそう研究に邁進され、当学会においても活躍されることを願ってやまない。

2005 年 3 月 5 日
植物地理・分類学会賞審査委員会

植物地理・分類学会賞応募要領

植物地理学と植物分類学の振興と育成のために、植物地理・分類学会に次の 2 つの学会賞を設ける。

1) 名称：植物地理・分類学会賞

応募資格：受賞の年度において 5 年以上にわたって植物地理・分類学会員であること

受賞の対象となる業績内容の例：

- ・地域植物相の解明に貢献
- ・モノグラフの研究に貢献
- ・分類群の系統解明に貢献
- ・地域の植物研究グループの中心としての教育的な貢献

応募方法：自薦または他薦による候補者の推薦

提出書類

- a) 履歴書（研究歴を明瞭に記載したもの）1 部、又は学校、研究所、博物館等に所属していない者はこれまでの研究歴について書いた書類 1 部
- b) 業績リスト 1 部
- c) 主要論文の別刷りをそれぞれ 3 部、あれば著書 1 部
- d) 推薦理由書
- e) 業績内容を照会できる人（1 名）の連絡先を記した書類

応募期限（2007 年度）

2006 年 10 月 31 日

応募先（必ず書留便で郵送下さい）

〒920-1192 金沢市角間町

金沢大学自然計測応用研究センター附属植物園

植物地理・分類学会

庶務幹事 木下栄一郎

2) 名称：植物地理・分類学会奨励賞

応募資格：植物地理・分類学会員で、優れた萌芽的研究で成果を出し、今後の発展が期待できる者

- ・ファーストオーサーとして植物地理・分類研究に論文を発表している者
- ・応募時満 35 歳未満の者

応募方法：自薦または他薦による

提出書類

- a) 履歴書（研究歴を明瞭に記載したもの）1 部
- b) 業績リスト 1 部
- c) 主要論文の別刷りをそれぞれ 3 部、あれば著書 1 部
- d) 推薦理由書
- e) 業績内容を照会できる人（1 名）の連絡先を記した書類

応募期限（2007 年度）

2006 年 10 月 31 日

応募先（必ず書留便で郵送下さい）

〒920-1192 金沢市角間町

金沢大学自然計測応用研究センター附属植物園

植物地理・分類学会

庶務幹事 木下栄一郎

学会賞の決定：1 月の学会賞審査委員会にて決定される。

学会賞審査委員会の構成：会長（1 名）、評議員（5 名）、審査委員（幹事会推薦の若干名）からなる。会長又は評議員が応募者や推薦人になったときは審査委員会に出席できない。

受賞式：年次総会において賞状および副賞（金 5 万円）が授与される。また、受賞者は受賞講演を行い、講演内容は「植物地理・分類研究」に掲載される。

学会のホームページのお知らせ

植物地理・分類学会のホームページがあります。その中に、お知らせ、投稿規定、会則、入会案内、および論文索引があります。論文索引は第 1 巻第 1 号から第 52 巻第 2 号までの通巻 156 号につき、著者名と日本語の論文名が出ていますので、御活用ください。

<http://raicho.sci.toyama-u.ac.jp/~naruiwa/phytogeographyandtaxonomy.html>

本会出版物とバックナンバーのセールのお知らせ

本会出版物

以下の本は送料込みの値段です。

植物地理・分類研究会（1986 年発行）：植物地理・分類研究（北陸の植物）索引 1,000 円（1952 年の第 1 巻から 1985 年の第 33 巻までの索引で、和名索引、学名索引、著者名索引からなっている）

植物地理・分類学会（2002 年発行）：各都道府県別の植物自然史研究の現状 2,000 円（植物地理・分類研究 創刊 50 周年記念号（第 152 号）の第 2 部各都道府県別の植物自然史研究の現状 143～262 頁を小冊子にしたもの、レッドデータブック植物編一覧追録（1）、（2）付）

バックナンバー

雑誌の名前が「植物地理・分類研究」となった第 27 巻から第 49 巻（通巻第 105 号～第 150 号）まで、計 23 巻（44 冊）をセットとして販売しております。2005 年 12 月末日まで、セット価格は送料込みで 4 万円です。ただし、学会会員で個人の購入に限り 3 万円です。セット以外、分冊の場合は、下記の従来通りの価格です。

1 巻ごとのバックナンバー価格

Vol. 27～Vol. 29	個人会員	1,500 円	団体会員	2,500 円	会員外	3,000 円
Vol. 30～Vol. 43	個人会員	2,000 円	団体会員	3,000 円	会員外	4,000 円
Vol. 44～Vol. 48	個人会員	3,000 円	団体会員	4,000 円	会員外	6,000 円
Vol. 49～Vol. 52	個人会員	4,000 円	団体会員	6,000 円	会員外	8,000 円

無料配布

以下のものを希望者に無料で配布します。ただし、請求者は学会員であることと送料を負担することになっています。受取人払いの宅配便にてお送りします。

石川県教育委員会、1978 年発行、手取川流域の手取珪化木産地調査報告書、301 頁＋図版 117 頁＋ルートマップ＋地質図

旧雑誌名「北陸の植物」の端本（園抜けになったバックナンバー、18 巻より 26 巻まで、ただし、巻が若いほど欠号が多い）

申し込み先：〒930-8555 富山市五福 3190 富山大学理学部生物学科

岩坪美兼（会計幹事） Tel. 076-445-6628（直通） Fax. 076-445-6549 E-mail iwatsubo@sci.toyama-u.ac.jp

植物地理・分類学会「入会案内」

入会方法

- 1) 本学会に入会を希望される方は、切り取り線より下の部分（コピーでも可）に情報を記入のうえ、郵便で郵送先に送ってください。
- 2) 同時か又は短期間内に、個人会員の場合は、年会費 4,000 円（学生会員 1,000 円）、団体会員は 6,000 円を、郵便振替口座 00760-0-904 番、植物地理・分類学会宛に振り込んでください。
- 3) 郵送先：
〒930-8555 富山市五福 3190 富山大学理学部生物学科
植物地理・分類学会
TEL 076-445-6628
FAX 076-445-6549

..... 切り取り線

年 月 日

ふりがな 氏 名	英語表記： 生年月日 年 月 日
所 属： 同上住所：〒 電 話：	FAX： E-MAIL：
自宅住所：〒 電 話：	FAX： E-MAIL：
会誌送付先（どちらかに○）	勤務先 自宅
「現在取り組んでいる研究課題，興味のある分類群・地域」について： （キーワードで 5 語以内でお願いします）	

CONTENTS

Articles

- Naohiro Naruhashi, Takayuki Nishikawa and Yoshikane Iwatsubo : Taxonomic relationship between Japanese *Potentilla anemonefolia* and Himalayan *P. sundaica* (Rosaceae)1
- Mineaki Aizawa : Reconfirmation of localities recorded up to today by examination of voucher specimens and by investigation in the habitats—Case study of the five subalpine conifer species in Honshu, Japan13
- Zheng-Xiang Wang, Kazue Fujiwara and Yun Lei : Phytosociological study of the *Fagus lucida* forests and *Fagus engleriana* forests in China43
- Takako Ankei and Gen Murata : A community of the endemic species *Ilex nipponica* Makino (Aquifoliaceae) in Yamaguchi Prefecture67

Short communications

- Hiroshi Ikeda and Yukio Yoshino : A new locality of *Potentilla centigrana* Maxim. (Rosaceae) and its distribution in Japan75
- Takashi Kamijo, Yutaka Kiyohara, Miyuki Matsuda, Taku Kato, Yoshinobu Hoshino and Hiroyoshi Higuchi : Rapid expansion of distribution of Bat's-wing Fern, *Histiopteris incisa* after the 2000-year eruption on Miyake-jima Island, Japan83

Miscellaneous notes

- Kenji Horie, Yoshinori Miyamoto, Noriyuki Kimura and Shigehiro Kamoda : A new locality of ferns in Hokkaido, Japan91

Memorial writing

- Kuniji Yoshida : Obituary of the late Mr. Kazuo Inami93

Book reviews99

Titles of articles in other botanical journals105

Announcements110

編集委員会 (Editorial Board)

編集委員長 (Editor-in-Chief)	鳴橋 直弘 (Naohiro Naruhashi, Toyama)
主任編集委員 (Managing Editor)	岩坪 美兼 (Yoshikane Iwatsubo, Toyama)

古池 博 (Hiroshi Furuike, Kanazawa)	中田 政司 (Masashi Nakata, Toyama)
福嶋 司 (Tukasa Hukusima, Tokyo)	清水 建美 (Tatemi Shimizu, Matsumoto)
河野 昭一 (Shoichi Kawano, Kyoto)	鈴木 三男 (Mitsuo Suzuki, Sendai)
菊池多賀夫 (Takao Kikuchi, Yokohama)	和田 直也 (Naoya Wada, Toyama)
木下栄一郎 (Eiichiro Kinoshita, Kanazawa)	綿野 泰行 (Yasuyuki Watano, Chiba)
北川 尚史 (Naofumi Kitagawa, Nara)	Madjit I. Hakki (Berlin, Germany)
小島 寛 (Satoru Kojima, Tokyo)	Frederick H. Utech (Pittsburgh, U.S.A.)

2005 年 7 月 25 日発行	編集発行人	〒930-8555 富山市五福	富山大学理学部	鳴橋 直弘
	発行所	〒930-8555 富山市五福	富山大学理学部	生物学科内
				植物地理・分類学会
	印刷所	〒920-0855 金沢市武蔵町 7 番 10 号		能登印刷株式会社